

情報社会を生きる①

～ メディア・リテラシー ～

菅谷 明子

今日の内容

最初のページをつくろう

今日の手順

- 一 教科書 P.132 「情報社会を生きる」メディア・リテラシー」をじっくり読み、味わう。
- 二 筆者について書く。 **※教科書 P.136 参照**
- 三 教科書下 **漢** の漢字練習を行う。 **※五つあります。**
- 四 教科書下の **㊦** のことばの意味調べを行う。 **※三つあります。**
- 五 「情報社会を生きる」メディア・リテラシー」を読んで、感想を丁寧に書く。
条件 1 「あたかも」という言葉を必ず使うこと。
条件 2 三段構成で書くこと。
- 六 文章の **1 3** の形式段落を **四段構成** に分ける。
※教科書に印をつける。

以上、六つの手順で行っていきます。

それでは始めてください。

5/15（金） 二時間目

情報社会を生きる

「メディア・リテラシー」

菅谷 明子

一九六三（昭和三八）年。北海道生まれ。ジャーナリスト。
著書「メディア・リテラシーと世界の現場から」
「未来をつくる図書館」など。

新出漢字

- ① 視聴者（しちようしゃ）
- ② 恣意的（しいてき）
- ③ 把握（はあく）
- ④ 捉える（とらえる）
- ⑤ 分析（ぶんせき）

意味調べ

① 臨場感（りんじょうかん）

実際その場に身を置いているかのような感じ。

（例）臨場感あふれる画面。

② 媒介（ばいかい）

A 両方の間に立って、なかだちをすること。とりもつこと。

（例）虫が伝染病を媒介する。

B ヘーゲル哲学で、存在や認識が他のものによって条件づけられて成り立っていること。

③ 思わく（思惑）（おもわく）※「惑」は当て字

A 思うところ。考え。意図。見込み。期待。

（例）彼には何か思わくがあるらしい。

B 他の人々の考え。評判。気うけ。

（例）世間の思わくを気にする。

C 相場の変動を予想すること

D 恋い慕う気持ち。恋心。

情報社会を生きる「メディア・リテラシー」を読んで

例）本当に私たちの身の回りにはたくさんの方が情報が溢れています。スマホから、テレビから、パソコンから：山ほどある情報の中から自分の都合に合わせた情報だけを選択し、あたかも世の中の意見のように他者へ伝えたり、自分の意見かのように主張したりしている。確かに情報を得ることはこれからの社会を生きていく中で絶対に必要なことであると感じている。しかし、情報に振り回されたり、一つの情報だけを信じてしまえば、多くの情報を見えなくなったりしてはいけなと思う。だからこそ、多くの情報を得、正しい方向へと進んでいく判断力を身につけておかなければいけないと改めて思いました。これから生きていくのに前向きに生きていきたいと誰もが思っていることだと思ふ。だからこそ、未来を創造し、笑顔で生きていく力を身につけたいと思ふました。（340字）